

# 国語科学習指導案

指導者 立花 律子

1 日時 7月 7日(金) 1校時

1 学級 3年2組 男子 19名 女子 14名 計 33名 南校舎3階

3 主題 第3単元 状況に生きる 挨拶－原爆の写真によせて (光村図書「国語3」)

## 4 主題について

「挨拶－原爆の写真によせて」は、作者が、衝撃的な原爆被災者の写真を初めて目にし、書いた詩である。この教材では、学習指導要領の「C読むこと」の中のウ「表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと」を中心に指導する。この作品は擬人法、対句、倒置などの表現技法のほか印象的な語句の選択が見られ、表現をもとに詩を理解するための好材といえる。また、原爆の写真によせて戦争と平和を題材としているこの作品は、現代の日本にあって平和が当たり前の中で生まれ育ってきた世代の生徒たちにとって、社会と自分の関わりやもっと大きな世界の状況に目を向ける契機となりうる価値をもつ題材である。

生徒はこれまでに詩や短歌・漢詩などで表現技法を学び、それを手がかりに内容の理解を深め、味わう学習をしてきた。3年生になってからも、「わたしを束ねないで」で改めて詩の学習をしている。そこでは、詩に込められた作者の思いを、各連の対比的な表現から5つのイメージでとらえた。ただ、生徒は既習の表現技法を指摘し、語句の辞書的な意味を説明することはできても、語句が詩の中で、どのような効果を上げて使われているかを説明する力は、まだ十分ではない。「挨拶－原爆の写真によせて」は原爆投下とその写真を見ている作者との間に時間差、場所の違いがある。この詩を読む生徒との間にもさらに差や違いがある。しかし、生徒には、自分の体験していないこと、過去のことであっても、今生きている自分たちの状況と重なるものがあること、むしろ私たちが変わり映えしないと思って過ごしている毎日は、常に地球的規模の危機にさらされていることに気づくべきだという作者の思いを読みとらせたい。この詩の学習では、特徴的な表現をおさえしていく学習を通して、作者の思いを理解させ、生徒に自分のおかれている状況を現実的に見つめる目をもたせたい。

詩の表現をおさえ読む能力は、ここでの単なる詩の内容理解にとどまらず、あらゆる文章を読む際に必要な力である。語句は独立して使われる場合と文脈の中で使われる場合とで意味合いが変わることがある。短い表現形式である詩であれば、なおさらその一語がそこにある意味は大きくなる。同じ主題をもつ別の作品と読み比べることを通して、作者が自分の思いを表すため、意図的に選んだ語句や表現があることをとらえさせ、作者がその詩に込めた思いに気付かせたい。この学習を通して生徒が獲得する「読む能力」は、今後他の文章を読む際の豊かな読解を支えていくものとする。

## 5 指導計画と評価の計画 (別紙)

## 6 本時の達成目標

国語への関心・意欲・態度	詩に表された状況や作者の思いを自分なりに想像しながら、表現に寄り添って詩を読もうとしている。
読むこと	詩「挨拶－原爆の写真によせて」を読んで、表現の仕方に着目しながら、作者の思いをとらえ、書いている。
言語についての知識・理解・技能	簡潔な語句や表現に込められた作者の思いや願いを想像し、書き表している。

## 7 本時の指導の構想

### (1) 指導構想及び留意点

2時間扱いの2時間目が本時である。語句はやや平易だが、生徒の経験とは隔たりがある詩であるため、1時間目では詩を音読したり、視写したりすることに十分に時間をとった。表現の仕方に着目させながら、作者の思いをとらえさせるために、本時の学習活動については、3つの読み方を特に取り上げた。1つめは比べて読むということで、他の作品との比べ読みや作品の中の対比をとり上げて読ませる。2つめは、視点をもって読むということで「時間」と「顔」を具体的にとり上げた。3つめは、音読を行わせることで、読ませるとともにその価値をおさえさせる。このほかに、他の作品に読み広げるための関心を引き出す目的で、具体的に「水ヲ下サイ」との比較や原爆や戦争、同一作者の作品紹介を行うこととする。

### (2) かかわりあいを生かす手だてについて

本時では、つかむ過程で他の詩と比較して読むことから「挨拶－原爆の写真によせて」の雰囲気をとらえさせ、学習課題の設定に結びつけたい。また、視点をもって読むという方法を意識させ、表現の仕方に目を向けさせながら、作者の思いについての学びを深める流れを作る。最後は、「作者の思い」を「作者からのメッセージ」として生徒に書かせることで課題のまとめをさせる。作者の思いは「油断」「やすらかに美しく」という詩の中の「ことば」を「よりどころ」として意識させ、生徒に使わせ説明させる。さらに、学習課題にかかわり、読み方として一般化しておさえさせたい「比較」「視点」それにかかわる「時間」などの「ことば」を特に意識させて使わせたい。

8 本時の展開

A 達成度 B 学習速度 C 取り組み方(学習の仕方) D 見方・考え方 E 興味・関心 F 生活経験

段階	過程	時間	学習活動	評価の観点・方法	指導上の留意点	教材・教具等
導入	見つける・つかむ	7分	1 本時の学習の確認をする。  2 「水 <sup>みず</sup> ヲ下 <sup>くだ</sup> サイ」と比較して読む。  3 学習課題を把握する。		1 「挨拶 原爆の写真によせて」という詩の学習であることを確認する。  2 同主題の作品と比較して読ませることで教材の詩の雰囲気と対照させる。 ・共通点確認 被爆者 ・相違点確認 語り手 音の違い 色のイメージ例  「挨拶」は、例・切実感がない ・淡々としている ・原爆との距離感などに類するとらえ方	一斉
			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                         特徴的な表現の仕方に着目しながら、作者の思いをとらえよう。                     </div>			
展開	見通す  深める・広げる  まとめる		4 詩を朗読する。  5 表現された語句に着目しながら作者の思いをとらえる。  6 ここまでの学習をまとめる	6 〔読むこと〕  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                         表現に込められた作者の思いをとらえることができたか。                     </div> 記述内容・発表内容 A：観点、具体例、主題に関する語句の使用	4 各自に一読させる。 教師が読む。  5 特徴的な表現に着目させる。 (1) 「顔」に着目させる。 「焼けただれた顔」 死者 「すこやかな今日の顔/すがすがしい朝の顔」 生者 ・やすらかに美しく  (2) 「時間」に着目させ、3つに分けさせる。 1・2 連、過去 3～6 連、現在 ・7 連 過去・現在 ・「油断していた」のはだれか	一斉 ノート           道しるべ 個

		35分		C：他の生徒が発表した内容を書きとらせる。	
終末	振り返る・確かめる	8分	<p>7 詩の表現に込められた作者の思いをとらえる方法を一般化しておさえる。</p> <p>8 他の詩の読み広げにつなげる。</p> <p>9 「挨拶」を朗読する。</p>	<p>7 作者の思いをとらえるには</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・比べるものがあるとよい</li> <li>・視点を決めるとよい</li> <li>・実際に声に出して読むとよい</li> </ul> <p>ことをおさえる。</p> <p>8 原爆を主題とする他の詩をプリントで紹介する。</p> <p>9 教師が朗読。自分が共感するところは一緒に朗読する。</p>	<p>一斉</p> <p>資料</p> <p>一斉</p>